

「林忠彦写真展 紫煙と文士たち」

2012年1月21日（土）～3月18日（日）

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）で開催

林忠彦がとらえた文士の肖像とその時代・・・ 無頼派をはじめとする59名の文士を87点の作品で紹介

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）では、2012年1月21日（土）から3月18日（日）まで、「林忠彦写真展 紫煙と文士たち」を開催します。

林忠彦（1918～1990）は、「昭和」という時代を代表する写真家の一人で、日本の写真界をエネルギーに牽引、常に第一線で活躍し生涯現役であり続けました。戦前から報道・宣伝写真のカメラマンとして活躍し、終戦後は、混乱期の街頭やそこにたくましく生きる人々を捉えた写真、小説家などのポートレイトを撮影し人気写真家として知られるようになりました。特に戦後の文壇を賑わせた「無頼派（新戯作派）」の文士たちの写真は、林忠彦の代表作として知られるのみならず多くの人思い浮かべる個々の文士のイメージにもなりました。ポートレイトであれ風景であれ、林忠彦がファインダーを通して切り取った画面には、必ずストーリーが内在するのが特徴です。

今回は、林忠彦の代表作ともいえる文士のポートレイト作品から、文士とともに「たばこ」が写し込まれた作品87点をご紹介します。文士が手にし、あるいは傍らにあるたばこの姿は、さらにその文士たちの個性を豊かに演出しているようです。文士の肖像としての林忠彦の作品とともに、その時代の香りを感じていただければ幸いです。

〈登場する文士〉 太宰治／織田作之助／坂口安吾／三島由紀夫／川端康成／柴田錬三郎／松本清張／司馬遼太郎／北杜夫・・・など59名（詳細は別紙1。林忠彦プロフィールは別紙2参照）

〈展示関連の催し〉 展示関連講演会や特別映画の上映などを予定しています（詳細は別紙3参照）

「林忠彦写真展 紫煙と文士たち」開催概要

名 称	林忠彦写真展 紫煙と文士たち（ハヤシタダヒコシャシンテン シエントブンシタチ）
会 期	2012年1月21日（土）～3月18日（日）
会 場	たばこと塩の博物館 4階特別展示室
開館時間	午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
所 在 地	東京都渋谷区神南 1-16-8（渋谷駅から徒歩10分。公園通り）
協 力	林忠彦作品研究室・林義勝写真事務所・周南市美術博物館
入 館 料	大人・大学生 100円（50円） 小・中・高校生 50円（20円） ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※満70歳以上は入館料無料（要証明書）
休 館 日	月曜日



ご質問、画像データ
のご希望などござい
ましたら、お気軽に
広報担当までお問い
合わせください。

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：裊地（ほろち）由美子

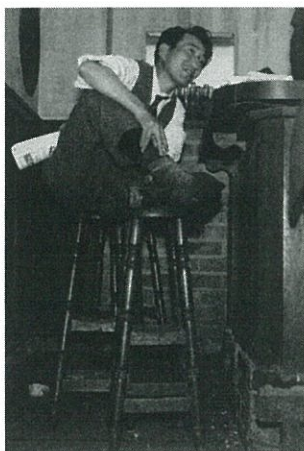
E-mail: horochi@tsmuseum.jp

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-16-8

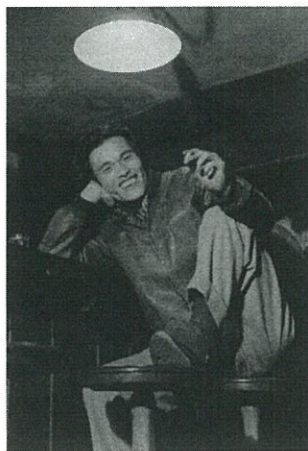
TEL: (03) 3476-2041 FAX: (03) 3476-5692

<http://www.jti.co.jp/Culture/museum/>

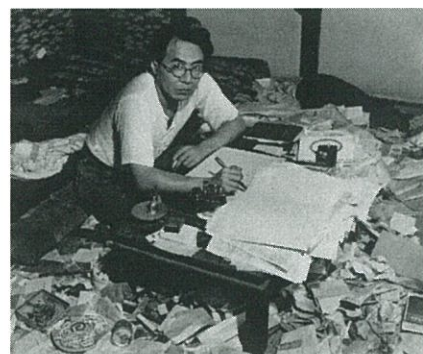
林忠彦がとらえた文士たち（展示作品のご紹介）



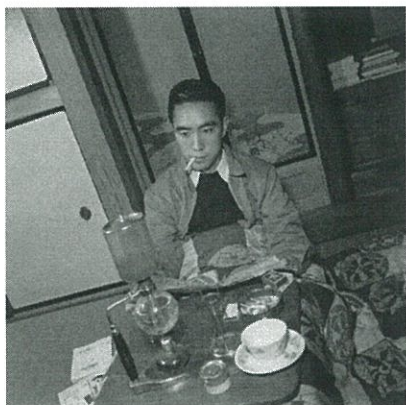
1.太宰治



2.織田作之助



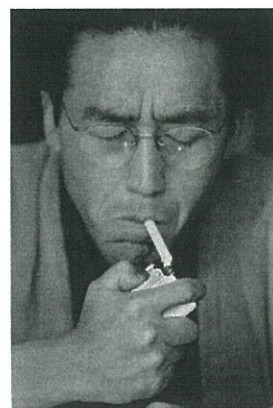
3.坂口安吾



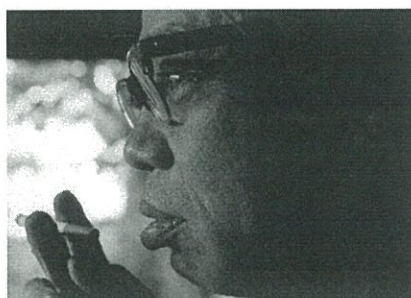
4.三島由紀夫



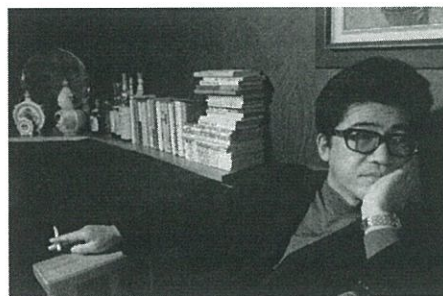
5.川端康成



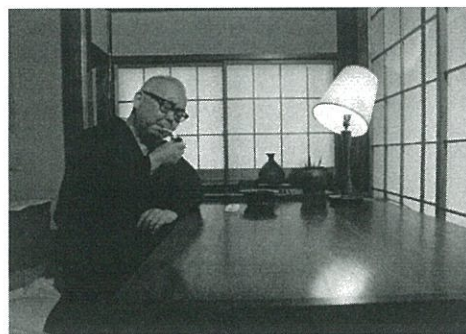
6.柴田錬三郎



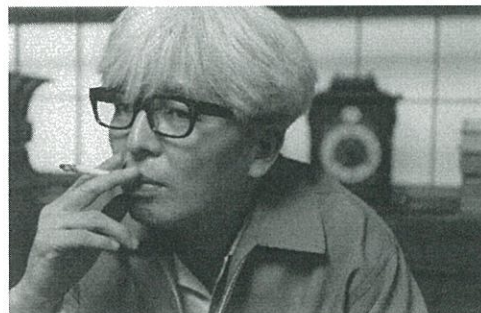
7.松本清張



8.安部公房



9.井伏鱒二



10.司馬遼太郎

画像データの用意がございます。ご掲載いただけるようでしたら、画像の番号を広報担当までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

広報担当：裓地（ほろち） 03-3476-2041 e-mail: horochi@tsmuseum.jp

林忠彦プロフィール



大正7年(1918)

山口県徳山市(現・周南市)の林写真館の長男として生まれる。
10歳頃に初めて写真を撮る。19歳で上京し、オリエンタル写真学校に入学。
卒業後、徳山の実家を手伝う。

昭和14年(1939)

再度上京。東京工芸社に入社、『アサヒカメラ』『婦人公論』をはじめ
多数の雑誌に写真を掲載。

昭和17年(1942)

華北広報写真協会を結成し北京に渡る。

敗戦後は東京に引き揚げ、戦後の街頭で世相写真を積極的に撮影し、従来の雑誌に加え、カストリ雑誌
などにも作品を掲載する。

昭和21年(1946)

織田作之助や太宰治を銀座のバー『ルパン』で撮影し、文士を撮り続ける契機となる。

昭和23年(1948)

『小説新潮』誌上で文士シリーズの連載が始まる。
人物ポートレートに加え、日本各地の風景撮影にも取り組み始める。

昭和28年(1953)

二科展写真部を立ち上げ、創立会員となる。
個展の開催や写真集『小説のふるさと』『日本の作家』『カストリ時代』の刊行など、精力的に活動
し、写真賞を多数受賞。
写真界への貢献から昭和58年に紫綬褒章、昭和63年には勲四等旭日小綬章を受章。

平成2年(1990)

12月死去。享年72歳。

【展示関連イベント】

〈展示関連講演会〉※当日先着順で整理券を配布します。

1月22日(日)

「林忠彦の仕事」 講師：岡井 耀毅 (ジャーナリスト)

1月29日(日)

「父の思い出」 講師：林 義勝 (写真家)

2月4日(土)

「渋谷戦後物語」 講師：岩崎 均史 (当館主席学芸員)

2月11日(土・祝)

「文士たちの周辺」 講師：阿刀田 高 (作家)

2月26日(日)

「林義勝ポートレイト教室」 講師：林 義勝 (写真家)

3月11日(日)

「戦中・戦後のたばこ事情」 講師：鎮目 良文 (当館学芸員)

※ 展示関連講演会は、いずれも午後2時から1階視聴覚ホールで開催。

※ 参加費無料 (ただし入館料は必要です)。

※ 定員は、先着80名 (いずれも当日開館時より整理券を1名様につき1枚配布します)。

〈特別映画上映〉※当日先着順 (整理券の配布はありません)

「伊豆の踊り子」(カラー87分/1963年製作)

上映日：1月21日(土)、1月28日(土)、2月5日(日)、2月18日(土)、
2月25日(土)、3月3日(土)、3月10日(土)、3月18日(日)

「潮騒」(カラー82分/1964年製作)

上映日：2月12日(日)、2月19日(日)、3月4日(日)、3月17日(土)

※ 特別映画はいずれも午後2時から1階視聴覚ホールにて開催。

※ 参加費無料 (ただし入館料は必要です)。

※ 定員は、先着80名。